

# 丹波亀山にて

—天正10年(1582)

6月1日—



可児市長の成神

—なんと！上様を討つ、と仰せられま

したか。それはまことですか— 左馬

之助(明智秀満)が周囲に漏れ聞こえ

ないよう、低い驚愕の声をあげた。こ

の場が集まった斎藤利三、藤田伝吾、

溝尾庄兵衛らも顔を見合わせている。

私は惟任日向守光秀。前右府信長の

家臣として、この十年ばかり戦に明け

暮れてきた。今、私は本当に信用でき

る者たちに決意を打ち明けたところ

だ。軍勢を京へ向かわせ、本能寺を宿

所としている信長を討ち、畿内を押し

えるつもりだと。

信長に仕えはじめた頃、私は充実し

ていた。当初、あの男の理想と私の理

想は驚くほど重なっていた。信長を、

まるでもう一人の私であるかのように

感じたからこそ、織田家に敵対する多

くの者たちを屠ってきた。信長と歩ん

でいけば、いつかは平和な世の中が実

現するのではないかと夢見ていた。そ

んな私が、目が覚める思いをふと感

じたのは、去る天正4年(1576)、

最愛の妻・熙子を失った時だった。

熙子の最期の言葉は

こうだった。—戦続

きの毎日でしたが、熙

子は本当に幸せでし

た。心残りがあるとす

れば、貴方や子どもた

ちと一緒に、戦のない

世を見ることが出来な

かったことでしょう

か。そのような世で私

は、ただひっそり貴方

と暮らしていきたくっ

たのです—

私はいつの間にか、終わることのな

い修羅の道に迷い込んでいたのではな

いか。平和な世を創るため、戦を繰り返

返す。何たる矛盾であろうか。織田信

長は、日の本全てを平らげるまで戦を

止めないだろうが、その道のりは遠い。

武で蹂躙せずとも、天下を平穩にする

方法はあるのではないか。

—皆聞いてくれ。私には、恨みも野心

もないのだ。ただ、あの男の元には平

和の徴である麒麟は来ない。そう感じ

たのだよ。私につらなる人たちに、た

だ平穩に暮らしてもらいたい。それだ

けが望みだ。信長を討ち畿内を押しさへ、

これ以上の戦線拡大を防ぎ、周囲との

均衡を保つ方策を考えたい—

しばしの沈黙の後、左馬之助が応え

る。—殿と我々は一心同体ですぞ。今

更何をいいますか。志を遂げられ

よ—我が腹心も皆領(あし)している。ありが

とう。心を許せる臣下を持てたことに

感謝しよう。

そう、思い出した。私は惟任日向守

「麒麟児(明智光秀公 ~新しい時代の疾風(かぜ)を興した者~)光秀が願った戦いのない平和な世の中への思いを、このブロンズ像に託します。



明智光秀公ブロンズ像 (1/4 スケール版)  
製作 神戸峰男氏 撮影 山崎兼慈氏

市長空想シリーズ「明智光秀」全四話 完

時は今。

だ。私が何者であるかを知るためにも、彼

の者を討ち、前に進まねばならないの

だ。光秀ではない。私は「明智」光秀。土

岐明智氏の頭領であり、美濃国可児郡

の所領を失って以降、一族の安住の地

と平和な世を求めてきた男だ。

さて、行くか。本能寺へ。「敵は本

能寺」などと言うつもりもない。敵で

はなく、過去にもう一人の私であった

男が本能寺に居る。自身が麒麟に相応

しい者であるかは分からない。だが、

私が何者であるかを知るためにも、彼

の者を討ち、前に進まねばならないの

だ。

## 市の人口

11月1日現在( )内は前月比

102,380人(+19)

【男】

50,734人(+4)

【女】

51,646人(+15)

【世帯】

42,748世帯(+45)

